

名前 () 日づけ (/) できた数 (/28)

使い方 書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この文章の山は「秋=とき」の読み、再読文字「未」「宜」、そして先帝(劉備)と陛下(劉禅)の区別です。

あらすじ＝蜀の丞相・諸葛亮は、魏を討つ北伐に出発するにあたり、若い皇帝劉禅に上奏文をたてまつる。先帝劉備が漢室復興の途中で世を去り、いま蜀は天下三分のなかで疲弊し、危急存亡の時にあると現状を述べ、家来の言葉を広く聞くこと、賞罰を宮中と府中で公平にすること、賢臣を近づけ小人を遠ざけることを説く。後半では、南陽で畑を耕していた自分を先帝が三度も訪ねてくれた恩(三顧の礼)を回想し、いよいよ出陣するにあたって涙ながらに筆をおく。

臣亮(しんりやう)言(まう)す。先帝(せんてい)創業(さうげふ)未(いま)だ半(なか)ばならずして、中道(ちゆうだう)に^③崩殂(ほうそ)せり。今天下(てんか)三分(さんぶん)して、益州(えきしゅう)疲弊(ひへい)す。此(こ)れ誠(まこと)に^⑤危急存亡(ききふそんぱう)の秋(とき)なり。然(しか)れども、侍衛(じゑい)の臣、内(うち)に懈(おこた)らず、忠志(ちゅうし)の士、身(み)を外(そと)に忘(わす)るる者は、蓋(けだ)し先帝の^⑥殊遇(しゆぐう)を追(お)ひて、^⑦之(これ)を陛下(へいか)に報(むく)いんと欲(ほつ)すればなり。誠(まこと)に^⑧宜(よろ)しく聖聴(せいちやう)を開張(かいちやう)し、以(もつ)て先帝の遺徳(ゐとく)を光(かがや)かし、志士(しし)の氣(き)を恢弘(くわいこう)すべし。宜(よろ)しく妄(みだ)りに自(みづか)ら菲薄(ひはく)し、喩(たと)へを引(ひ)き義(ぎ)を失(うしな)ひて、以て^⑨忠諫(ちゅうかん)の路(みち)を塞(ふさ)ぐべからざるなり。宮中(きゅううちゅう)・府中(ふちゅう)は俱(とも)に一体(いつたい)たり。^⑩陟罰臧否(ちよくばつざうひ)、宜(よろ)しく異同(いどう)あるべからず。

(中略)
賢臣(けんしん)に親(した)しみ、^⑪小人(せうじん)を遠(とほ)ざくるは、此れ先漢(せんかん)の^⑫興隆(こうりゅう)う)せし所以(ゆゑん)なり。小人に親しみ、賢臣を遠ざくるは、此れ後漢(ごかん)の傾頽(けいたい)せし所以なり。

(中略)
^⑬臣は本(もと)布衣(ふい)、躬(みづか)ら南陽(なんやう)に耕(たがや)し、苟(いやしく)も性命(せいめい)を乱世(らんせい)に全(まつた)うし、聞達(ぶんたつ)を諸侯(しよこう)に求(もと)めず。先帝臣の卑鄙(ひひ)なるを以てせず、猥(みだ)りに自ら枉屈(わうくつ)し、^⑭三(み)たび臣を草廬(さうろ)の中(うち)に顧(かへり)み、臣に諮(はか)るに当世(たうせい)の事を以てす。是(これ)に由(よ)りて感激(かんげき)し、遂(つひ)に先帝に許(ゆる)すに驅馳(くち)を以てす。

(中略)
今遠(とほ)く離(はな)るるに当(あ)たり、^⑮表(へう)に臨(のぞ)みて涕泣(ていきふ)し、云(い)ふ所(ところ)を知(し)らず。

語注 臣＝家来。ここでは諸葛亮が自分をへりくだって言う語。先帝＝今は亡き前の皇帝。蜀を建てた劉備。中道＝途中。益州＝蜀の中心となる地方。今の四川省あたり。侍衛の臣＝宮中で君主のそばに仕え、守る家来。忠志の士＝忠義の心をもつ武士。陛下＝現在の皇帝への敬称。ここでは劉禅。聖聴＝天子がお聞きになること。開張＝広く開くこと。恢弘＝大きく広げること。菲薄＝自分をつまらない者と見て卑下すること。忠諫＝真心からのいさめ。宮中・府中＝宮中は皇帝の住まい、府中は丞相府(諸葛亮の役所)。賢臣＝小人＝すぐれた家来／徳のないつまらない人間。先漢・後漢＝前漢と後漢。傾頽＝傾き崩れること。南陽＝諸葛亮が畑を耕していた土地。聞達＝名が知られ、出世すること。卑鄙＝身分が低くいやしいこと。枉屈＝自分の身を低くしてかがめること。草廬＝草ぶきの粗末な家。驅馳＝馬を走らせること。転じて主君のために奔走すること。※一つめの(中略)＝宮中と軍営それぞれについて、信頼できる家臣(郭攸之・費禕・董允、將軍向寵)の名をあげ、相談するよう勧める部分。※二つめの(中略)＝先帝が後漢の桓帝・靈帝の失政を嘆いていたことを述べ、忠義の臣を信任するよう願う部分。※三つめの(中略)＝先帝の死後、遺言を受けて国政を担い、南方を平定し終えた今こそ北伐に出て漢室を復興すると誓う部分。※末尾の「今遠く離るるに当たり」と読む本と、再読文字として「今当(まさ)に遠く離れんとし」と読む本があります。お使いの教科書に合わせてください。

出師表

A 語句の意味と読み(1～7)

- (1) ①「言(まう)す」を現代仮名遣いの平仮名に直して書け。
- (2) ③「崩殂(ほうそ)せり」の意味を書け。
- (3) ⑤「危急存亡(ききふそんばう)の秋(とき)の「秋」は、季節の「あき」ではない。ここではどのような意味か書け。
- (4) ⑥「殊遇(しゅぐう)」の意味を書け。
- (5) ⑫「興隆(こうりゆう)せし所以(ゆゑん)なり」の「所以」の意味を書け。
- (6) ⑬「臣は本(もと)布衣(ふい)」の「布衣」の意味を書け。
- (7) ⑮「表(へう)に臨(のぞ)みて涕泣(ていきふ)し」の「涕泣」の意味を書け。

B 句法(8～13)

- (8) ②「未(いま)だ半(なか)ばならずして」の「未」は何と呼ばれる字か。読み方と意味もあわせて書け。
- (9) ⑧「宜(よろ)しく聖聰(せいちやう)を開張(かいちやう)し」の「宜」も再読文字である。二度目の読み(本文では「志士(しし)の氣(き)を恢弘(くわいこう)すべし」の部分)と、「宜しくすべし」の意味を書け。
- (10) ⑨「忠諫(ちゆうかん)の路(みち)を塞(ふさ)ぐべからざるなり」は、直前の「宜しく妄(みだ)りに自(みづか)ら菲薄(ひはく)し」の「宜しく」を受けた形である。「宜しくべからず」の意味を書け。

- (11) ⑦「之(これ)を陛下(へいか)に報(むく)いんと欲(ほつ)すればなり」の「〜んと欲す」の意味・用法を書け。

- (12) ⑦「之(これ)を陛下(へいか)に報(むく)いんと欲(ほつ)すればなり」の文末の「なり」は、どのような働きをしているか。

- (13) ⑥「殊遇(しゅぐう)」を含む「蓋(けだ)し先帝の殊遇(しゅぐう)を追(お)ひて」の「蓋し」は、どのような意味・用法の語か。文末のどの言い方と呼応しているかもあわせて書け。

C 主語・指す内容 (14～17)

(14) ①「言(まう)す」とあるが、この文章を書いて差し出したのは誰か。また、差し出した相手は誰か。

(15) ③「崩殂(ほうそ)せり」とあるが、亡くなったのは誰か。

(16) ⑦「之(これ)を陛下(へいか)に報(むく)いんと欲(ほつ)すればなり」の「之」は何を指すか。

(17) ⑭「三(み)たび臣(しん)を草廬(さうろ)の中(うち)に顧(かへり)み」の主語は誰か。また「臣」とは誰か。

D 口語訳 (18～21)

(18) ②③を含む「先帝創業未だ半ばならずして、中道に崩殂せり」を口語訳せよ。

(19) ④⑤を含む「今天下三分して、益州疲弊す。此れ誠に危急存亡の秋なり」を口語訳せよ。

(20) ⑨を含む「宜しく妄りに自ら菲薄し、喻へを引き義を失ひて、以て忠諫の路を塞ぐべからざるなり」を口語訳せよ。

(21) ⑪⑫を含む「賢臣に親しみ、小人を遠ざくるは、此れ先漢の興隆せし所以なり」を口語訳せよ。

E 内容・記述 (22～25)

(22) ④ 「三分（さんぶん）して」とあるが、どのような状態か。国名をあげて説明せよ。

(23) ⑩ 「陟罰臧否（ちよくばつざうひ）」とはどのような方針を述べたものか。続く「宜しく異同あるべからず」の内容もふくめて説明せよ。

(24) ⑪ 「小人（せうじん）を遠（とほ）ざくるは」とあるが、諸葛亮はここで前漢・後漢の歴史を引いて何を言おうとしているのか。四十字以内で書け。

(25) ⑮ 「表（へう）に臨（のぞ）みて涕泣（ていきふ）し」には、諸葛亮のどのような気持ちが表れているか。三十五字以内で書け。

F 文学史・故事 (26～28)

(26) この文章の題名『出師表』の読みを書け。また「表」とはどのような文章かを書け。

(27) ⑭ 「三（み）たび臣を草廬（さうろ）の中（うち）に顧（かへり）み」から生まれた故事成語を書け。また、その意味も書け。

(28) この文章の作者諸葛亮の字（あざな）と、仕えた国の名を書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①「秋」は「とき」。「危急存亡の秋」を季節の「あき」と訳すと即アウト。読みと意味の両方を書けるようにしておく。 ②この範囲でねらわれる再読文字は「未」と「宜」。「未だ半ばならず＝まだ半分も終わらない」「宜しく～すべし＝～するのがよい」。打ち消した「宜しく～べからず＝～してはならない」もセットで覚える。 ③先帝＝劉備、陛下＝劉禅。記述問題の答えは、ほぼこの人物関係と「賢臣に親しみ、小人を遠ざく」に集まります。